

## 日本赤十字北海道看護大学 根本 昌宏 教授

能登半島地震の被災地である石川県輪島市へ支援に入り、避難所の環境改善に務めた日本赤十字北海道看護大学の根本昌宏教授にお話を伺いました。



根本 昌宏（ねもと・まさひろ）  
水戸市出身。1999年の日本赤十字北海道看護大開学時からのスタッフで、2015年に教授就任。災害対策教育センター長も務める。学内での専門分野は薬理学、寒冷地防災学。



根本教授が持参した台湾製プラスチックベッド。  
軽くて耐久性があり30秒で設置できます。

**本日、初めて防災用の合板ベッドをご覧いただきましたが、いかがでしょうか。**

まずは地元の業者が行政の防災担当と一緒にになって段ボールベッドの改善点を克服しようとしたこと、このワンステップだけで素晴らしいことだと思いますし、そういう防災に対する意識を持つていることが重要だと思います。

合板ベッドは耐久性もあり、収納

るということです。私の知る限りでは、国内には約60種類の段ボールベッドがありますが、そのうち7、8割は収納ができない段ボールベッドです。私は輪島市に支援に入りましたが、輪島市だけでも12種類の段ボールベッドが国から送られてきました。そのうち使えるものは1種類だけです。これが現場で起きた現実です。これを解決するのは難しいことではありません。ベッドを1種類にして、その組み立て方を住民の方が訓練しておくということ、このことができていれば、段ボールベッドは皆さんに使っていたくことができると思います。

スペースも確保されているなど、良い点はたくさんありますが、私がもつとも期待すべきところは、「匂い」です。このベッドは木の良い匂いがしました。これを避難所に100台整備したとき、避難所の匂いが変わったと思うのです。避難所はどうしても「すえた匂い」がします。匂いは映像では伝わらないので、皆さんも意識しづらい部分だと思いますが、大切なことです。

避難所でも最低限の生活の質を守るということを考えると、匂いの改善は生活の質を落とさないことがあります。また、木のベッドだと普段使っているベッドに

近く生活の質は保たれます。普段、段ボールでは寝ないですよね。感覚的なことではありますが、非常に大切なことです。私が感じたのは、厳冬期よりも厳しいということです。冬は体を温めれば何とか生きていけます。そこには薪や石炭を煙突型で使うなど、昔の生活が活かされます。しかし、暑さに対する対処の仕方とか、それは原始的なものが存在しません。氷や川の水、もしくは扇風機を使うくらいです。もちろん大地震を想定していますので、電気は使えません。エアコンは使えませんし、扇風機は乾電池で使うしかありません。扇風機も10人や20人くらいの避難者なら備蓄しておけるかもしれません、100人規模となると難しいですね。そういう考えると暑さ対策については、今のところ解決策がないという

が正直なところです。

災害のことというのは、誰しもが考えたくない「嫌なこと」です。まずはその感覚が正常だということを分かってください。何となく避難訓練を押し付けられて、仕方がなくやっているというのが普通なのです。その上でちょっと考えていただきたいのは「後悔をしない」ということです。どうしても何かが起こった後には後悔が残ります。その後悔をしないように、というのが防災の原点であり、これは家庭や職場など、各々の立ち位置で異なります。今、自分は何を後悔するのだろうか、ということを考えて「これをやっておこう」「あれをやっておこう」と、防災としては考えないで行動すること、「後悔しない生活」をしてほしいと思います。

**2024年1月1日に発生した能登半島沖地震の特性をお聞かせください。**

大きくは三つあります。一つ目は1月に発生した大地震ということで、1995年の阪神・淡路大震災と同じなのですが、大きな違いがあります。それは積雪地域で起きたということです。二つ目は地理的な特性で、損壊した道路や土砂などが多発していたということです。つまり避難する方もそうですが、支援する方も避難所に行くことがままならなかつたとい

うことです。

三つ目は高齢化率の高い地域で発生したということです。

この「冬型」「地理的」「高齢化」という3つの特性は、北海道でいうと札幌市以外は全て当てはまります。そう考えると、北海道はこの能登半島地震から多くのことを学び、さまざまな対策を取りなけばなりません。

実際の避難所の様子を聞かせてください。

能登半島地震は直下型の地震で

あたため、地震の揺れによって地盤が液体のようにドロドロとな

る「液状化現象」が起きました。

液状化というと、埋め立て地や軟弱地盤などのイメージがありますが、今回はそれほど地盤が弱い

地域ではなかったのにも関わらず、

ことごとく液状化を起こしていま

した。地盤が弱ると、その上にあ

る家屋も全て駄目になってしまいます

ので、指定避難所のドアが斜めになっていて開かないということがあ

りました。そのような中でも、避難者の皆さんは、着の身着のままで過ごさざるを得ません。毛布

などの、指定避難所のドアが斜めになっていて開かないということがあ

りました。そのような中でも、避難者の皆さんは、着の身着のま

で過ごさざるを得ません。毛布

などと理解してもらい、初めて使つてもらえるのです。問題は他にもあります。貴重品などを収納できない段ボールベッドがたくさんあ

るといふことをなどを説明し、段ボ

ールベッドを使うメリットをきち

んと理解してもらい、初めて使つてもらえるのです。問題は他にもあります。貴重品などを収納でき

ない段ボールベッドがたくさんあ

るといふことをなどを説